



学校だより

令和5年9月29日

No. 7 10月号

横浜市立篠原西小学校

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shinoharanishi/>

子どもの内面を知る

校長 金子 博美

秋の訪れを感じる風が吹き始めました。門のそばに咲く彼岸花も鮮やかです。

校内で子どもたちに会うと、あいさつのしるしにハイタッチをすることがあります。ある日、3階の廊下を歩いている私に気づいた1年生と次々にタッチをしていた時のこと。教室から出て流し場に向かう男の子が「あ、校長先生！」と声をかけてくれたので、タッチのポーズでその子の方に近づくと、咄嗟に自分の両手の平を上に向けて手首のあたりだけが私の手の平に触れるようにしたのです。嫌だったかなと思い、立ち止まってそっと目を合わせると、「今、手に糊がついているから」とひとこと。よけたようにみえた行動に気遣いがあったことを知りました。「ありがとう」とお礼を言いました。嬉しそうでした。

毎日子どもたちを見ていると、できない、やりたくない、わからない、と学級生活や学習がうまく進んでいない場面にも遭遇します。その場で一緒にやってみたり詳しく気持ちを聞いてみたりするとその原因が解消して楽しそうに動き出すこともあります。その姿を見ていると、どの子にも「できるようにになりたい」「みんなと一緒にやりたい」という思いがあることがわかります。一番困っているのは、その子自身かもしれません。態度で決めつけず心の中の思いを信じ、一人ひとりに温かく接することが大切なのだと思えます。

子どもたちは、常に「よりよい自分でありたい」と思っています。頭でわかっていることをいざ実践しようとするとき、その場その場で様々な思いを抱いたり考えたりするでしょう。そこで子どもたちが思い通りにできるようになるためには、そばで見守る役割の私たちが子どもの内面まで見ようとする必要があると考えます。心の中にどんな思いがあるのか、その思いをどう受け取れば子どもたちはルールを守ったり集団の中で楽しんだりすることができるのか、子どもの内面に耳を傾けて考えることも必要です。子どもの目に見える行為だけでなく内面に目を向けてかかわること、その行為を価値付けることは、次のよりよい姿へとつながるはずで、一人ひとりの内面を知るように努め、思いを知ることによって個の理解を深めるよう丁寧に学校生活を送っていきたくと思っています。

城郷小机地区センターにて開かれた「横浜子ども会議 港北区交流会」において、区内各校の代表児童生徒がそれぞれ中学校ブロックごとに取組や実践を発表し、話し合いました。テーマは、「つながる、広げる、いじめの未然防止の輪 ～いじめをなくすために、一人ひとりができること～」です。代表として参加した6年生から全校に向け、朝会で会議の報告をしました。

「つながり」を大切にしながら様々な活動を通していじめをなくしたり未然に防止したりするためにできることを子どもと共に考え、取り組んでいきます。

篠原中学校ブロック

【港北小・篠原小・篠原西小】

- 各校でいじめについて話し合う機会をもったり、児童会や生徒会のテーマの中に、つながりを意識できるような言葉を取り入れたりした
- 異学年交流を大切に、仲を深めることができるようにする

【第2回学校運営協議会～授業参観～】参観後、「子どもたちが落ち着いていた」「友達とよくかかわっていた」「保護者が参加する場面もあってよかった」などの感想をいただきました。今の学校の様子を知っていただく貴重な機会となりました。ありがとうございました。